



2025年 7月 9日
第2号

JR東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

JR東労組横浜地本第30回定期大会

確認された大会宣言

大会宣言（案）

JR東労組横浜地本は7月6日、かながわ労働プラザ多目的ホールにおいて第30回定期大会を開催し、スローガン、運動方針を含め全組合員で組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

2025 JR総連春闘で横浜地本は「労働実態・生活実感を訴え25春闘要求を私たちからつくり出そう！」をスローガンに春闘メッセージ行動と、会社の早期回答によるJR総連春闘破壊を許さず、JR総連春闘をたたかい抜くための討議資料を作成し、横浜地本春闘集会で問題意識を高めてきた。首都圏協議会とも連携して横浜のみならず他地本とのたたかひもつくり出してきた。要求満額を勝ち取ることはできなかったものの、全組合員に当たりきることにより、春闘集会に組合員の半数を結集させてきた教訓的な実践と、春闘期間中に1名の組織拡大を実現した。最大の教訓は、組織拡大を「一丁目一番地」として、常に分会の中での共通認識とし全組合員で関係を積み上げてきた。さらには、これまで踏み込めていなかった己から脱却し、相手に迫りきったことで次なる組織拡大へと繋げてきた。この教訓を我がものとして、更なる組織拡大を実現していこう。

「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」が提案された。職場ではこれまでにない大きな提案に疑問や不安の声が相次いでいる。私たちは、緊急で各機関意見交換会や代表者会議などを開催し、社友会にはできない系統を超えた議論をつくり出してきた。「競争型年功賃金」とも言うべき評価制の人事・賃金制度が導入されようとしている。過度な競争を職場に持ち込み、安全を脅かすものは反対である。「定期昇給を軸とした新たな格差と分断、不利益変更反対！安全・健康・生活を守るため、全組合員でたたかおう！」のスローガンの下、会社の狙いを明らかにして、騙されない・諦めない組合員づくりを職場で展開していこう。

JR東日本の信頼を揺るがす事故・事象が後を絶たない。2度も発生させた新幹線列車分離、山手線複数車両でのパンタグラフ故障、グループ会社の人件費水増し請求。安全よりも「稼ぐ」ことがトッププライオリティとなっていると言わざるを得ない。まさに、JR西日本福知山線脱線事故を発生させた当時の大阪支社と同じ状況であり、いつ大きな死亡事故が起きてもおかしくない状況である。チェック機能を果たせるのはJR東労組でしかない。「命と安全」を最大の価値基軸として、「安全・健康・ゆとり」のある職場をつくり出すために、組合員・未加入者と議論し、JR東労組への結集を呼びかけ、過半数代表者選の勝利を実現しよう。

「被害者が加害者とされた！JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」の裁判闘争がスタートした。会社は、Aさんを不良社員として仕立て上げ、管理者の暴行はなかったことにし、事実の改ざん・隠蔽を図ってきている。あったことをなかったことにする経営姿勢を許してしまえば、安心して働くことはできない。健全なJR東日本会社をつくり出すために駅頭ビラ配り等で、真実を自らの言葉で大衆に語りかけ広範なたたかひをつくり出そう。

戦後80年、沖縄と日本がまた戦地になろうとしている。ひとたび戦争になれば、鉄道は戦争の被害者にも加害者にも加担者にもなり得る。「抵抗とヒューマニズム」の精神で、JR東労組に賛同する横浜地本推薦議員等懇談会と全ての仲間とともに、平和で安心して暮らせる社会を実現するために行動していこう！

以上、宣言する。

2025年 7月 6日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部第30回定期大会

実現するたために行動していこう！
平和で安心して暮らせる社会を

全組合員で組織強化・拡大を実現していこう！